

報道関係者各位(参考資料)

2014年(平成26年)7月11日

## 腰痛も“予防”できる！ サプリメントの継続摂取で、腰痛の諸症状の緩和を確認 第14回日本抗加齢医学会(於:大阪)で発表

株式会社ファンケル(本社:横浜市中区、代表取締役社長執行役員:宮島和美)は、お客様一人おひとりが、年齢を気にすることなく、心身ともにすこやかに生きていく=Good Agingをかなえるための様々な研究を行っております。

その一環として、普段から腰痛を自覚する方を対象に、プロテオグリカン\*1、テアニン\*2、ヒハツエキス\*3、クレアチン\*4、 $\alpha$ -リポ酸\*5、葉酸、ビタミンB<sub>6</sub>、ビタミンB<sub>12</sub>を含むサプリメントを摂取することによって、プラセボ(=偽薬)を摂取したグループと比べて腰痛の症状が有意に改善することを確認しました。

また、腰痛を悪化させる、「腰のコリ」、「腰のハリ」、「腰の冷え」、「腰の重さ」についても、サプリメントの摂取によってその症状が有意に軽減していることが確認され、この研究成果を、2013年9月21日~23日に行われた「第68回日本体力医学会大会」において発表しております。

当社では、同成分を配合したサプリメント「コシラックス」を2013年9月に発売して以来、多くのお客様にご支持いただいております。このたび、市販後調査から効果特性を探ることを目的に、2,052名の自記式質問紙票を使用した調査を実施し、その効果を再確認いたしました。

この内容については、2014年6月7~8日に開催された第14回日本抗加齢医学会において発表いたしました。

以下に研究の概要および結果をお知らせいたします。

### 研究の概要

#### 研究の経緯・目的

慢性腰痛は、有訴率の高い症状にも関わらず、根本から治療できる薬は存在しないため、運動や食事など生活習慣の改善による予防が重要とされています。しかし、現代社会において、このような生活習慣の改善は必ずしも容易ではないため、当社では、腰痛の症状そのものではなく、根本原因に着目した成分を複合的に配合し、筋肉・血行・軟骨への作用による腰痛対策をコンセプトとしたサプリメント「コシラックス」を開発。ヒト試験において、腰痛の諸症状が緩和されることを確認しました。

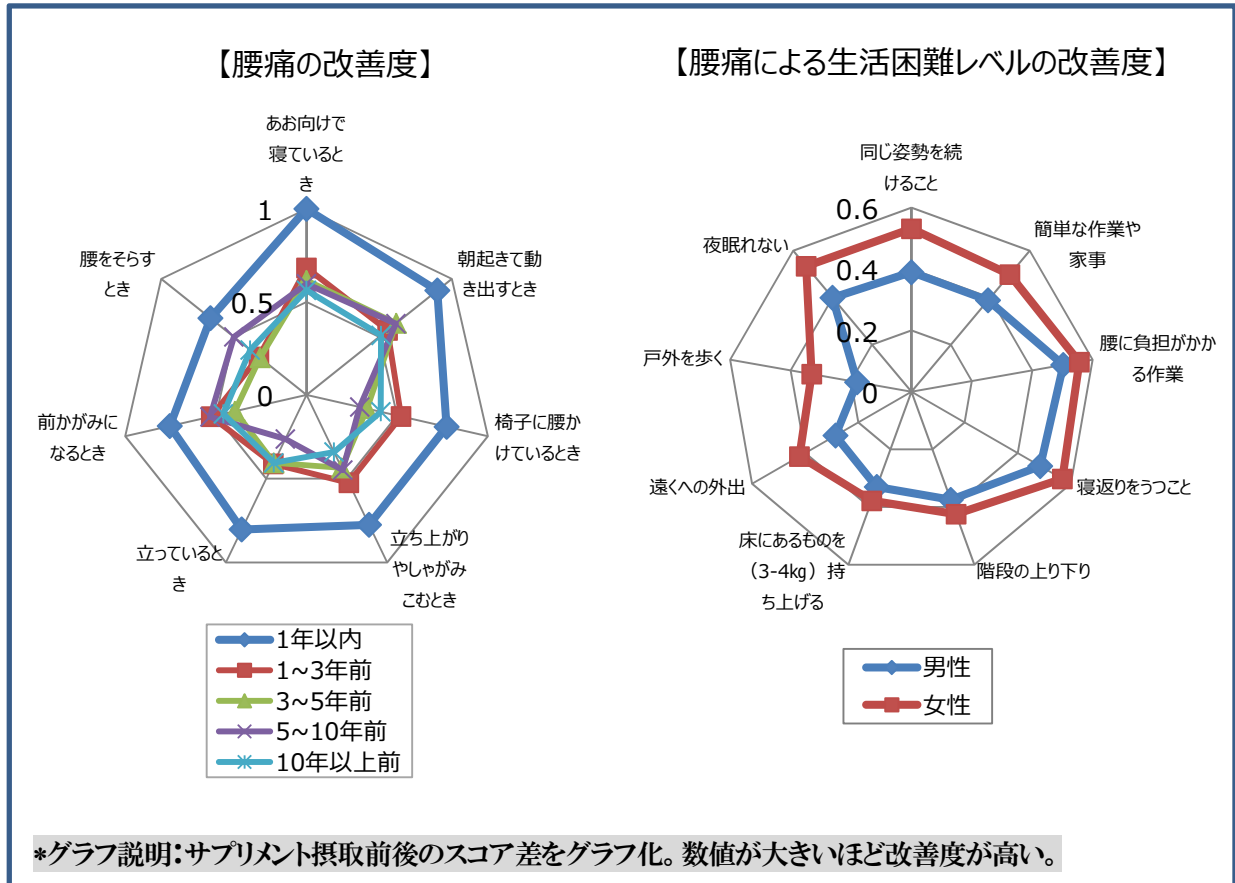
今回はさらに、サプリメント摂取の腰痛に対する効果特性を探ることを目的に、市販後の大規模調査を行いました。

#### 研究の方法

2013年9~10月に腰痛対策をコンセプトとしたサプリメント「コシラックス」を購入された2,052名を対象に、郵送形式の自記式質問紙票を使用した調査を実施。有効回答757名(男性204名、女性548名:回収率37%)の腰痛症状の実態、サプリメント摂取前後の作用の現れ方の違いについて、対象とするグループごとに解析しました。

## 研究の結果

ヒト試験の結果と同様に、あらためてサプリメントの有用性が確認されました。また、サプリメント摂取前後の「腰の痛み」や「生活困難レベル」について 5 段階(0~4 点)で評価していただいた結果、腰痛歴が短いグループ(1 年以内)で改善度が高く、また女性の改善度が高い傾向があり、対象とするグループにより、作用の現れ方が異なる可能性が示唆されました。< 下図 >



## 研究発表と今後の展開

本研究は、第 14 回日本抗加齢医学会(2014 年 6 月 7 日・8 日、於:大阪)にて、「腰痛に対するサプリメント摂取の効果について」として発表いたしました。腰痛の原因や症状は様々で、サプリメントによる効果にも個人差があります。今後は症例の検証も含めてさらに腰痛に関する研究を進めると同時に、サプリメントや運動、生活習慣の改善による腰痛予防の啓発活動を行ってまいります。

## 共同研究者:折茂 肇先生のコメント

血流、筋肉、軟骨に対して作用を有する成分を配合したサプリメントの摂取により、腰痛の改善効果があることが、ヒトにおけるプラセボを対照とした二重盲検試験により証明されました。

さらに、大規模な市販後調査において、改めてその効果が検証されました。一般的に腰痛患者に対しては NSAIDs(医薬品)が汎用されていますが、重篤な胃腸障害等の副作用があり、特に高齢者ではその使用が問題となっています。

このような症例に対しては、このサプリメントの使用を推奨します。



折茂 肇先生  
(医療法人財団健康院 理事長  
/健康院クリニック 院長)

## 【用語解説】

### ※1:プロテオグリカン…

軟骨の構成成分で、ヒアルロン酸と同程度の保水効果がある。プロテオグリカンは、細胞増殖や成長に関わり、軟骨の合成と分解のバランスを整える働きがあり、軟骨分解による損傷を抑えることが期待できる。

### ※2:テアニン…

緑茶に含まれるアミノ酸で、摂取すると脳内でα波が増加する。α波にはリラックス効果があり、自律神経に働きかけ、硬直した筋肉を緩める働きがある。

### ※3:ヒハツエキス…

コショウ科の植物。血行促進に働きかける。

### ※4:クレアチン…

アミノ酸の一種。筋肉へのエネルギー供給に働きかけるほか、運動時における筋肉疲労の回復を早め、筋肉量の減少を抑える働きもある。

### ※5:α-リボ酸…

エネルギー代謝に関わる補酵素。クレアチンと一緒に摂ると、クレアチンの取り込み量を増やし、働きをサポートする。

本件に関するお問合せ先

株式会社ファンケル

社長室 IR・広報グループ 三澤 敬之 ・ 油井 紀理子

〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1

TEL:045-226-1230 / FAX:045-226-1202